

◆子供に人気の優しいシスターが、普段おさえているほどばしる性欲を処理するため、裏のエロ顔で営む淫語ささやき耳舐めシコシコによる、脳がとろける丹念な男根ご奉仕

◆第1章（夫である神に謝罪しながら教え子のイケメンパパを思い浮かべて浮気オホ声オナニー！もてあます性欲処理の実態！）

「はあい、今日の英語教室はここまで」

「また明日、この続きからやりましょう」

「せいーゅーあげいん」

「今日も、皆さんに神のご加護がありますように……」

「ふふふ……」

「……氣を付けて、帰るのよー」

「……はあい、さよならー」

「……はあい、また明日あ」

……

……

……

「ん？ なあに？」

「えっ？ 私が？ 結婚しないのって……？」

「あらあら、うふふ……」

「そうねえ……」

「実は、私はもう、結婚、してるのよ」

「……ん～……神様と結婚してるの」

「ちょっと難しいかな？」

「でも、いざれわかる……え、う？」

「アナタのパパが？ 私の事を、そう言つてたの？」

「あら……そう……」

「そんなことを……」

「(はあ……はあ……はあ)」

「あ……うん……また明日ね……」

「気を付けるのよ……」

「(はあ……はあ……はあ)」

……

……

『ガチャ』

『バタン』

「(はあ……はあ……はあ)」

『しゅる……しゅ……』

「(はあ……はあ……)」

「ん、つ……ん、つ……」

「あ、つ……ん、つ……」

「お、ミ、お、ミ、お、ミ、う、ミ、……」

「お、ミ、お、ミ、お、ミ、お、ミ、つ、……」

「(はあ……はあ……はあ……はあ……)」

「(はあ……はあ……はあ……はあ……)」

「(はあ……はあ……はあ……はあ……)」

「私のこと、ん、つ、そういう目で、見てたの、つ、お、……」

「あ、つ……あ、つ……」

「あ、ミ、あ、あ、あ、ミ、き、ぱ、ち、い、い、……」

「おまん、い、つ、き、ぱ、ち、い、い、……」

「お、ミ、お、ミ、お、ミ、お、ミ、……」

「パパのくせに、……あ、の優しい目つきで、……私の事みて、……」

「私の服の中身を想像してたのね、つ……」

「シコいって思つて、……想像してたの、つ、お、……」

「子供の相談しながら、……本当は、私と交わることを想像して勃起してたの、ミ、お、つ、
ほ、お、つ」

「お、おつ……効、くう、うつ!! 今の、効くわあ、あ……」

今頃、もしかしたら……私のこと、想像してオナニーしてるかも、っ……

「私のことを考えながら……おチンポを、おセンズりい、いつ……」

「コキコキしちやつてるのか、もお……」

「それ、もう、セツクスじやんつ……」

「やつばつ……それ、もう完全にセツクスじやんつ……」

「お、おつほお、おづ
W W —

「ああ、つ……申上つ……」

卷之三

卷之三

二二

「ん
づ
・
・
ほ
へ
へ
・
・
・
・
W

「きもち
い
い
い
い
」

卷之三

「やめらんない い
……」

「こればっかりは……やめらんない い
……」

「これやめたら、死んじやうう……」

「お……？」 お……おうづ……お……」

「あたつ……あたつ……」

「すごいのくるつ……これ
う……アクメ
う……」

「めっちゃいいアグメ
.....くるつ
つ.....」

「へるう……へるへるう……」

「アクメ、つ……浮気アグメつ……つつ（ほ）お、お、ミ、お、…」

「おつりー！」

「お、う、う、うつ！」

「ん　ふつ……ふ、ん　う」

」(註 1) 依此觀之, 這兩句詩的「我」字, 並非指詩人自己, 而是泛指當時的士人。

「ふううう、うううう、うう、う……」

「あー……気持ち良かつた……」

「あ――――――――後でちゃんと、告解とかないと……」

「ああ……」

「…………ダメ…………まだ、動けないわあ…………」

◆第2章（匿名アダルトチャンネルで性欲処理オナニー配信！　これは浮気になりません）

「あ、ー……もう、……」

「なによ、もお、……告解してんのに、なんで説教くらわないといけないのよ……」

「あのく（そ）……おうんこおじいさまに、私の夫の何がわかるってのよ……」

「私の夫は、もつと寛大に許してくれますわよ……」

「あ、ー……」

「むしゃくしゃしますわ……」

「あ、ー……もう……」

「あ、ー……」

「やあああ……駄目これ……」

「……久々に、あれ、やりますかあ……」

……

……

……

「はああい♡」

「こんばんオナニー♡」

「ww　あははっ……そうね、流行らないですねー、これww」

「あ、ナイスパー……ありがとお」

「スペチャは最後にまとめて読みますねえ」

「あ、またっ……ナイスパー、ありがとお」

「ええー……？ そうそうー……そうなんですよお」

「また上司に怒られちやつてえ……」

「いや、仕事そのもののことじゃなくてえ……」

「プライベートの事……」

「そうそう、本来、そんなの注意される筋合いないやつなんですか！」

「そうなの~~~~~」

「マジ、ほんとヤバ谷えん……」

「え？」

「パワハラで……訴えれ、ば……」

〔(スル) W W 〕

「それいいかもーWW」

「絶対ビビるよね、それされたらあWW」

W
W
W
W

W W W W W W W W

「ヤバつww
ツボつたわwww」

「あ
」
W
W

「……んー?・♡」

「じゃあ、そろそろ、いつものいっとく?」

「お耳のチンポマッサージ・♡」

「はあい」

「じゃあ、まず、こっちの、お耳からあ……」

「やあやあやあやあ……」

「いっくよお……」

「チンポっ……チンポっ……チンポ……チンポ……」

「次は、こっちのお耳い」

「やあやあやあやあ……」

「いっくよお……」

「チンポ……チンポ……チンポ……チンポ……」

「ふふ……」

「お耳、ほぐれた?・♡」

「んふふ……えええ?……見たい?」

「もおお……みんな揃ってスケベえさんですねえ・♡」

「そんなにチンポきもちよくなりたいんですかあ?」

「ふふ……」

「まあ、そうですよねえ♡」

「精子タンクに溜まつたお精子をピュッピュすると、きもちいい～いですもんねえ♡」

「ふふ……」

「はあい♡わかりましたあ……」

「じゃあ……」

『しゅるしゅる……しゅる……』

『パサつ』

「ふふ♡」

「はあい、おっぱいでえす♡」

「わっ、赤スパ♡ ありがとー♡ あとで読むからあ♡」

「ふふつ……」

「あ、ごめんねえ……顔はちょっとNGなのお……」

「ん～……仕事柄なんだけどねえ」

「怒られちゃうからあ……」

「ごめんねえ……」

「ん……」

「でも、その代わり、エッチなオナニー見せてあげるからあ♡」

「いっぱい、シコつてくださいねえ」

「ふふ♡」

「一緒に、気持ち良おおく、なろお♡」

「(はあ……はあ……はあ……はあ……)」

「あ、ー……たくさんの方々が私を見てセンズリこきこきしてるとと思つたら、興奮してきちゃつた♡」

「(はあ……はあ……はあ……はあ……)」

「じゃあ……するねえ」

「オナニー……」

「ふふ♡」

「ん……」

「ん、つ……あ、……」

「あ、……あ、……あ、……」

「(はつ……はつ……はつ……はつ……はつ……)」

「あ、あ、あ、あ、あつあ……」

「あ、つ……あ、つ……あ、つ……あ、つ……あ、つ……」

「つつつ効つく、う、……」

「やつぱ……見られながらの、オナニー……す、きい、ミ、いつ……」

「あ、つあつあ、つあ、つあ、つあ、つあ、つ……」

「はあ、あ、あんつ♡」

「やつばあ、あ、あいいいい

「指、
とまんない、いつ……」
〔心〕

「ほつつほ、ほ、おつほお♡」

「おつ……おつ……おつ……おつ……」

卷之三

「また告解つ……しなきやつ……」

「怒られたので、またすぐ告解は、
ハハ

〔我國民族的民族主義……〕

卷之六

卷之三

「ほほほつ
WW」

おもちよしゅせでつ……わらつひやう、うづW
W】

ちよいづかい

いづかい　かるイキつしゆるお^ハ

かるイギするかや……おわせれる人……おわしえてえつ

〔.....〕

「くおつ、う……おつ……」

「う
（ぐ）つ
……」

「ひあ、あ……」
〔〕

「せんもひい、い、いつ……」

「お、つほほつ〔〕

「つほ、ほ……」

「（はあ……はあ……はあ……はあ……はあ……）」

「あー……」

「あ
あ
あ
一
…」

「……ふふ♡」

「みなさん、どうでした？ 逝けましたあ？♡」

「えええ？♡ ホントですかあ？♡」

「おちんぽミルク、でたあ？♡」

「ちょww デシリットルつてww すぎ、すぎww」

「ふふ……♡」

「あ、スパチャありがとねー……後で全部読むからあ……」

「……んー？♡」

「や、まだまだ……」

「軽イキしただけだから……」

「これから、こらから……」

「ふふ……」

「ちょっと待って、今、見せるから……」

「今日のメインはあ……」

『ガサつ』

「これえつ♡」

「ね、すごいでしょ？これつ……」

「デイルドつー」

「マジ、一目ぼれして買ったのぉ……」

「マジで黒人のチンポ型とつて作つたつて……」

「やばいでしょ、これえ……」

「うつは……ww 改めて、まぢまぢ見ると……エッグ……」

「はつはwww」

「えつぐいなあ……w」

「これが、私のアソコに入るんですかあ……今からあ……」

「ん……今日のメインは、これでファニッシュユきめます」

「ふふ♡」

「じゃ、軽イキの余韻が残つてるうちに、そろそろいきますかあ」

「ふふ♡……♡」

「いきまあす♡」

「んお、つー?」

「お、お、つほつー?」

「つつ……つ……れ、つ……やつ、ば……」

「(い) つお、お、お、ミれ……わ、つ……」

「(ほほほほほほほほほほほほ……)」

「カリだかつ……や、つば……」

「すゞっ……カリっ……これっ……」

「お、つほ、お、お、お、お、お、お、つ……」

「ゼン、ぶつ……はいつ、た、あ、あ、……」

「ふお、お、お、う……」

「お腹までつ……響く、つ……つ……」えつ……」

「(はつはつはつはつはつはつ)」

「出し入れしゅうよお」

『じゅぼ、じゅぼ……』

「あ、あ、あ、あ、あ、あ、……」

「おま、ん、こ、きぼぢいといいい……」

「ほんつと……きぼぢいといい……」

「あ、つ……あ、つ……あ、つ……あ、つ……」

「おちんぽだいしゅきいいい……」

「あ、あ、あ、あ、あ、つ……」

「おなに、いだいしゅきい、きぼぢいいか(ら)あ……」

「あ、う、つ……あ、う、つ……あ、う、つ……あ、う、つ……」

「あ、あ、つ……あ、あ、つ……あ、あ、つ……あ、あ、つ……」

「黒人つ……チンポつ……デカマラつ……きぼちい、いつい……黒人、デカマラつ……」

「~~~~~」

「あ、あ、あ、あ、え、え……」

「く、あ、あ、あ……」

「しゃ、しお、お……、い……、」

「しゅぐ、い、ち、やう、」

「あへ、え、えへ……」

「でう……でぢやう……ひあ、あ……」

『ちょろつ……』

『ちょろうちょろ……』

『じょおおおおひ……』

『じょほほほほひほほほほほ……』

『じょおおおおひ……』

『ちょろつ……』

『ちょろつ……』

「あ、あ、あ、」

「おひつ……」

「でひやつ(た)あ……ww♡」

「……ひか、い……しあわや……」

「へ
あ、
あ、
あ……」

◆第3章【ASMR 淫語】（自分のおっぱいで勃起しちゃった子のオナニーのお手伝いをしてあげる優しいシスター！ 民衆へのご奉仕は浮氣にはあたりません）

「はあい、今日の英語教室はここまで」

「また明日、この続きをからやりましょう」

「せいーゅーあげいん」

「今日も、皆さんに神のご加護がありますように……」

「……氣を付けて、帰るのよー」

「……はあい、さよならー」

「……はあい、また明日あ」

……

……

……

……

「あら？ どうしたの？帰らないの？」

「え？」

「おちんちんが……大きくなっちゃって、痛いの？」

「……あらあら……」

「ホントだ……」

「テント張っちゃってるねえ」

「ん？」

「そつか……いつもは、待つてたら小さくなるのに、今日はならないんだ……」

「ん……」

「でも……どうしてかな？」

「なんでだと思う？」

「わからないこと、ないよねえ？」

「どうして、おちんちんが、こんなことになっちゃってるか……理由は、わかるでしょ？」

「ん？」

「もしかして……」

「女の人の裸の写真が載つてるような本とか……隠れて見たりしたかな？」

「正直に言つてくれないと……お姉さん、助けてあげられないなあ……」

「お姉さんも、助けるために全力をつくすから……」

「その代わり……正直に話すつて、約束してくれる？」

「ん……ありがと」

「うん……」

「え？」

「私のこと……考へてたの？」

「あらあら……」

「そしたら、おちんちんが、こんなふうになっちゃったんだ……？」

「ふーん……」

「そつかあ……そなんだあ……」

「うなぎ……」

「で？ もつと細かく、説明してくれる？」

「私の……どんなこと、考えてたの？」

「ええ？」

「あれえ？ あれあれえ？」

「おかしいなあ……正直に話してくれるって約束したのに……」

「嘘は……お姉さん、悲しいなあ……」

「じゃあ助けてあげられないかなあ……」

「ねえ?
だつて助けるためには、
正確な情報が必要なんだから……」

「じゃあ、このことはママに伝えてなんとかしてもらうといいわね

「私がうちママにお電話で連絡してあげるからあ……」

ん
ん
?
—

「詠目」なの？

「えー?
どうしてかなあ?
」

「可
が
ダ
メ
な
の
?」

「だって、しょうがないじゃない」

「正直に話してくれないから、助けてあげられないんだし……」

「ふふ……」

「わかった」

「じゃあ、正直に話してくれる？」

「そっか……」

「うん」

「私の……おっぱいのこと、考えてたのね」

「今日、揺れてたんだ……」

「そっか」

「揺れてるのをみたら、頭から離れなくなっちゃったんだね」

「そう……」

「ん……よく『言えたね……』

「偉かつたわ……」

「恥ずかしかつたよねえ……」

「ん……いいこ、いいこ……」

「つらかったねえ……」

「ん……おいで……」

「ぎゅうううつでしてあげる……」

『ぎゅうううつ』

「偉かつたご褒美よ……♡」

「ね、ほら……もつと……ぎゅううううううつ♡」

「ふふ……そうよねえ」

「思春期の男の子の前で、おっぱい揺らしたら……ダメよねえ」

「もつと女人のほうが、気を付けないとねえ……♡」

「ん?」

「どーしたのかな?・♡」

「……ふふ……すりごく、はあはあ言つてるねえ♡」

「ん~……」

「もしかしてえ……おちんちんが、もつと痛くなっちゃつた……?」

「そつか……」

「ん……大丈夫よ」

「お姉さん、ちゃんと治療の方法を知つてるからね」

「まずは、痛くないよう、おズボンとおパンツから、おちんちんを外にだしてあげよっか」

「自分で、できる?」

「ん……」

「偉いね」

『しゅる、しゅる……』

『パサつ』

「あらあら、まあまあ……」

「かわいい皮かむりチンポ♡」

「一生懸命自己主張してるけど、まだ自分が保護されていることに気づいてないのね……」

「ふふ……大丈夫よ」

「みんな、同じよ」

「そのうち一皮むけて、保護されなくとも生きられるようになったときには……」

「どれだけ今まで保護されてきたのかがわかるの……」

「でも、スースーしてヒリヒリするのは最初だけ」

「それが無くなつて、当たり前になつてくると同時に……」

「今まで味わえなかつた悦びも、自己責任でつかめるようになるの」

「それが、子供が大人になるということなの♡」

「……まだ難しいかしら?」

「ふふふ♡」

「とはいえ……」

「そうね」

「一皮むけてない、この段階での自己主張もバカにできないわね」

「使いようによつては、攻撃力だけなら大人と同じ……いえ、場合によつてはそれ以上にもなり得るんだもの」

「大人になりかけつていうのは怖いものよ」

「大人はわかっちゃくれないなんて言つて、非行に走つて、バイクにのつたり、窓ガラスをわつたり……」

「もしかしたら、ぴつちりぴつたり密着して保護されたままで、女の子を妊娠させちゃうかもしれないわ……」

「まああ、大変！！！」

「それは、一大事だわ！」

「私がシスターとして、この迷える子羊を導いてあげなければなりませんわ」

「ふふ♡」

「と、いうわけで……」

「はい、じやあ、まず、私と一緒に、子羊……じやなくつて、おちんちんを握りましようね」

「そう、治療するのよ」

「大丈夫。難しく考えないで……簡単な治療法がちゃんとあるから……」

「大丈夫よ。上から手を添えてフォローしてあげるから、自分でやつてみるの」

「ん……最初は、わからないのは、当たり前……」

「ゆっくりでいいから……」

「私が全部やつてあげるのは簡単だけど……」

「それはダメなの」

「飢えて苦しんでる村人に、神は魚を与えません」

「その代わり、魚を捕る方法を教えるわ」

「いつときだけ助けてあげても意味はないの……」

「自分で自分を助けられるように導くのも、また大事なことなのよ」

「ふふ♡」

「はい、じゃあ、手を上下に、うごかしてみましょう」

「ん……」

「お姉さんと一緒に、共同作業よ」

「上に……下に……そう……」

「皮をつかつて滑るように、上下に……」

「ん……そう」

「上に、下に……」

「上に、下に……」

「おいっちはに……おいっちはに……」

「おいっちはに……おいっちはに……」

「そ、う、よ、上、手、じ、や、ない、……」

「はじめてとは思えないわ……」

「もしかしたら、才能があるのかも」

「おいっちはん……おいっちはん……」

「おいっちはん……おいっちはん……」

「ふふ……」

「背中と腕に、お姉さんのおっぱいがあたつてるので、感じる…………？」

「感じるよねえ……」

「感じるよねえ……」

「はい、集中うう……」

『ふうううううううううう』

「あああん♡　かわいい声えつ♡」

「ふふ……そうだねえ……お耳も、きもちいいもんねえ……」

「じゃあ、お耳と、おちんちんと、背中だけに集中してみよっか」

「そう……それで……」

「おいっちはん……おいっちはん……」

「シコシコシコ……シコシコシコ……」

「ふふ……」

「そうやつて上_下に、おちんちんを擦ることを……シコシコっていうのよ」

「シヽコシヽコ……シヽコシヽコ……」

「シヽコシヽコ……シヽコシヽコ……」

「男の人はね、女人にシコシコって言われるのが好きなの……」

「女人にシコシコって言わると、せつなあくなつちやうのよ♡」 ☆

「ふふ……」

「シヽコシヽコ……シヽコシヽコ……」

「しー」しー」……しー」しー」……」

「だんだん気持ち良くなってきたでしょ？」

「せつなくて、やるせない気持ちが、シコシコすると、だいぶやわらぐねえ……♡」

「ふふ……じゃあ、おっぱいも、もつと押し付けて……上下にうごかしてあげるね……♡」

「上下に、おっぱいを動かしながら……」

「耳元で、シコシコって言つてあげる♡」

「お姉さんが、お手伝いできるのは、そこまで……」

「あとは、自分で頑張るの……」

「頑張れるよね？ だって、男の子だもん……」

「ほら……」

「上下に……」

「皮の上から……上に……下に……」

「シロシロお……しきしきお……しきしきお……しきしきお……」

「シロシロお……しきしきお……しきしきお……しきしきお……」

「シロシロシロ……シロシロシロ……」

「シロシロシロ……シロシロシロ……」

「ん?♡」

「おしつこがでそうなの?」

「ふふ♡」

「大丈夫よ、それはおしつこじやないから、そのまましていいわ」

「そのまま、排尿感に従つて、おもうままに、おちんちんから出しちゃいなさい」

「大丈夫よ、もし本当におしつこだとしても、後で掃除すればいいんだから」

「お姉さんを信じて……」

「そう……信じていいのよ……」

「信じて……」

「私を、信じて……」

「シロシロお……しきしきお……しきしきお……しきしきお……」

「シロシロお……しきしきお……しきしきお……しきしきお……」

「ふふふ♡」

「必死でこいちやつて、かあわいい♡」

「シヽコシヽコ……シヽコシヽコ……」

「あつ……♡」

「あんつ♡」

「すつごい量♡ やあん♡ すごおい……さすが、初物だわ♡」

「いいわあ……初物つ……♡」

「精子タンクで我慢の限界まで発酵させた芳醇な香り……」

「間違いなく初物ね……♡」

「ふふ……」

「大丈夫？ ピクピク終わつた？」

「ね？ 心も体も、おかしくなつちゃつてたの、良くなつたでしょ？」

「これからも、同じ症状になることはあると思うけど、そういうときは、同じように治療すれば大丈夫だからね」

「え？ この白いおしつこ？」

「んヽ……これはおしつこじやなくて、精液つていうのよ」

「ザーメンともいうわね」

「おしつこではないの」

「赤ちゃんのモトになるもので……」

「ふふ……まあ、お話する前に掃除だけしちゃいましょうか」

「タンパク質は、早めに掃除しないと、あとあと掃除が大変なのよ」

「それも覚えておくといいわね」

「これから長い事、使う知識だからね」

「ふふ……今日から始まって、これから、ずっと長い事、オチンチンで楽しんでいくんだから……」

「ふふ♡」

◆第4章【ASMR耳舐め】（風俗での奉仕活動！　教会の活動資金のためなら浮気にはなりません）

「はあい、今日の英語教室はここまで」

「また明日、この続きをからやりましょう」

「せいーゅーあげいん」

「今日も、皆さんに神のご加護がありますように……」

「……氣を付けて、帰るのよー」

「……はあい、さよならー」

「……はあい、また明日あ」

「……」

「(ふう)」

「わい……と……」

「ちょっと長引いちゃったわ……」

「急がないと……」

「……」

「……」

「……」

『ガチャ』

『バタン』

「あ、おつかれさまでーす」

「え? あ……ごめんなさい、遅れました? すいませーん……」

「時計が遅れてるのかなあ?」

「え! ? 指名! ? もう、待ってるの? 180分! ? え、誰?」

「初めての人! ? 写真指名で?」

「うわっ……ガッカリしなきやいいけどなあ……」

「あ、はあい、ごめんなさい……いそぎます」

……

……

……

『ひんぱーん』

『ガチャ』

「はじめましてえ、『オッパイレーツオブカリ首いやん』の、メリッサでえす」

「えつと……いい、ですか?」

「あ、いや……チエンジとか……」

「あ、ホント? やあん、嬉しいい♡」

「おじやましまます……♡」

「え? あ、ハーフじゃないですよ」

「両親ともアメリカ人なんでえ……」

「あ、日本語は、人生の半分以上は日本にいるんでえ……それで……はい」

「あ……」

「はあい♡……うん、180分なので、4万2千円ですねえ」

「ふふ……ごめんねえ、うち、ちょっと高いよねえ？」

「はい、じゃあ8千円のおつりですわね」

「ん……」

「はい」

「ふふ……♡」

「えー……？ そうなの？ バイトでお金ためて来てくれたんだあ……」

「嬉しいなあ……」

「学生さんですか？」

「そつかあ……」

「じゃあ、今日はあ……いっぱいチンポ気持ち良くなつてえ……」

「また明日から頑張れるように、精力をつけて帰つて貰わないといけませんね……♡」

「ん……じゃあ……シャワー、いきましょ♡」

……

……

……

……

「おまたせえ」

「ごめんねえ」

「待ちくたびれましたよねえ？」

「ふふ♡」

「私も、おふとん、入っていいーい？♡」

『ガサ、ゴソつ……』

「ふふ♡」

「入っちゃった♡」

「……あつたかあい♡」

「あ、もしかして、ちょっとクーラー強かつたかな？」

「少し、弱くする？」

「……そう？」

「ふふ……」

「足、細いねえ……」

「いいなあ……」

「私も、もうちょっと細かつたらいいのになあ……」

「そう?」

「ありがと♡」

「あああ……」

『ガサ、ゴソ』

「あ……」

「あれえ……?..」

「なんかあ……」

「もしかして……」

「……おひあくなつちやつてるよお……♡」

「あああ♡」

「やだあ……♡」

「すごいことになつちやつてるよお……♡」

「ねええ……」

「ああ……」

「……どうしよつかあ……これえ♡」

「ん~♡」

「ああ、どうしたい?」

「あれ? なあに? 緊張してるの?」

「……そつかあ……」

「こういうとこ、初めてなんだ……?」

「ん……」

「わかつた……」

「じゃあ今日は、お姉さんの、特別おまかせコースでぴゅつぴゅさせてあげる」

「大丈夫……ちやあんとチンポきもちいいきもちいいにして、天国、逝かせてあげるから……」

『ガサ、ゴソ』

「れろつ……れろつ……」

「ちゅぴ」

「ふふつ……動かないのつ」

「お耳は、とっても気持ちイイのよ」

『ふうううううううううううう』

「じつとしてで……」

『ちゅぴつ……れろつ……』

「もう片方もつ……」

『ちゅふ……ちゅふ……』

「ねつ……」

「お耳だけで逝ける人もいるのよ……」

「耳イキすると最高なんだから……」

「ふふつ……」

「大丈夫……」

「今日はちゃんとおチンポ、しごいて逝かせてあげるから……」

『がさ、ガサ』

「ローション、たっぷりつけてあげるね」

『じゅぱつ……』

『ぱぱつ』

「ふふつ……」

「ところところだねっ♡」

「ローションも、初めてなの？」

「そつか……」

「ローションでところところにするとな」

「こうやつて……ふふ♡」

「ムキムキして亀頭が丸出しになつた状態でも……」

「……手の平で包むように、おおざっぱに握つて、じしげし、おもいつきりシコれるんだよ
……♡」

「ふふ……」

「まあまあいいでしょお……♡」

『ふうううううううううう』

「ねええ……そうだねえ……気持ちイイよねえ……」

「おおざつぱに握つてございしシロると、きもちいいとい全部あたるでしょ?♡」

「ふふ……」

『れうれう……へろ』

「ふふう……喘じいやつて……かわいい……」

「溜まつてるザーメン……ぜんぶ、お姉さんがブツコぬいてあげるつ♡」

「あん♡」

「でも、そんなに腰へコしたらめえだよ♡」

「シコりにくいでしょお?♡」

『れろ……ロ……』

「もおお……今からそんな情けない喘ぎ声だしててどうするの?♡」

「今日は、精子タンクの中身、空っぽになるまでヌキヌキしまくんだから♡」

「まだまだ先は長いわよ?」

「ふふ……」

「あ……たまたまが自口主張してゐるわ……」

「精子を出そうとして、せりあがつてきてるつ……」

「すいじわつ……」

「一発目……逝くのねつ……」

「いいわつ……お姉さんのおでてマンコに、種付けしなさいつ」

『じゅぼ、じゅぼつ……』

「あんつ♡あつつ♡」

「でたあつ♡」

「大量お♡」

「ずいぶん溜めこんでたのねえ……もう、黄色くなりかけてるじゃない」

「もしかして、昨日からずっとマスタベしないで楽しみにしててくれたの?」

「ふふ♡ うれしつ♡」

「ん……いいよ、少しグッタリしてて……」

「おてて洗つて……お水、持つてきてあげる……」

「ふふ……休んだら一回戦できるかな?」

「ふふふ……回復するまで、普通のマッサージしてあげるね……」

「ふふふ♡」

「私、普通のマッサージも得意なんだよお……♡」

◆第5章（教え子のイケメンパパに告白され不倫オホ声おセッセ！ アナタごめんなさい！ 愚かなネトラレ妻の私をお許しください）

「はあい、今日の英語教室はここまで」

「また明日、この続きからやりましょう」

「せいーゅーあげいん」

「今日も、皆さんに神のご加護がありますように……」

「……気を付けて、帰るのよー」

「……はあい、さよならー」

「……はあい、また明日あ」

……

……

……

「……あら？ どうされました？」

「お子様ならもう帰られたと思いますが……」

「えつーー？」

「そんな……」

「そんなこと……いきなり言われましても……」

「い、いや、いきなりじゃなればいいというわけではなく……」

「私は、神と結婚している身ですから……」

「い、 いけませんっ…… いけませんわ……」

「こまりますっ」

「いりは神の御前ですのよっ……」

「ああああ……」

「駄目っ……」

「んっ……」

『ちゅっ……』

『ちゅふっ……』

『ちゅぱっ……ちゅっ……』

「あっ……は……」

「(はあ……はあ……はあ……はあ……)」

「なんて」と……

「こんな」と…… いけませんわ……」

「夫のいる身でありながら接吻だなんて……」

「え?」

「ま、 まあ……確かに、 告解をすれば、 罪は許されますが……」

「そ、 それは……」

「まあ……」

「理屈の上ではそなりますけど……」

「え？」

「ま、まあ……確かに、夫がいても、彼氏がいるという主婦は多いとは聞きますよね……」

「い、いや……とはいえ、さすがに……そんな……不倫じゃないですか……」

「あつ……ちょつ……やつ……」

「ああああん♡」

「な、なんて、強引な殿方つ……♡」

「あつ……あつ……あつ……あつ……」

「そ、そんな……」

「そんなに乳房を揉んではいけませんわつ……！」

「乳房はつ……赤子に授乳をするためのものつ……」

「そんなつ……男性の性欲を満たす道具として利用するなんてつ……」

「え……」

「た、確かにつ……確かに、まずは姦淫をしなければ、子供は生まれませんけど……」

「そ、そんなのかしら……」

「これが、本来の正しい乳房の使い方つ……？」

「あつ……は、あつんつ！……」

「そ、そうなのかしらつ……」

「わ、わたくし、なんだか、そんな気がしてまいりましたわっ……」

「正しい使い方なら、仕方ありませんわっ……」

「存分に、私の乳房を、性的な満足のために、ご堪能なさってくださいっ……♡」

「あんっ……あっ……あっ……あっ……あんっ……」

「すごいですわっ……」

「乳房を攻めるだけで、こんな……こんなに情熱的な……っんっ……」

「はあああああああっん……」

「え？」

「……場所、ですか？」

「場所を、変えるのですか？」

「はあ……」

「え、いえ……」

「別に、どうせ告解するんですから……良いんじやないですか？」

「今日はもう、誰も来ませんし……」

「……見られてる感じ……ですか？」

「ああ……夫にですか？」

「まあ……確かに……」

「あれ？」

「……ということは、もう告解しているようなものだから逆に大丈夫……ということではないでしようか？」

「おお……神よ……」

「寛大な御心に感謝いたします」

「これでもう、怒られないように他の教会を探し回って告解をすることなく、性を楽しむ」とができますわ」

「……」

「……さて」

「では、続きをどうぞ……」

「ええ？」

「大丈夫ですって」

「ここにはもう、今日は誰も来ませんから」

「本当ですってば……」

「ふふ……♡」

「あああ……やあああんつ♡」

「情熱的い、つ♡」

「ん、ん、ん、つ……素敵つ♡」

「(はあ……はあ……はあ……はあ……はあ……はあ……)」

「ああああ、ああ、つつーー！ 犯されるうう♡」

「あつ、あつ……あふつ……あつ……」

「あつは、あつん^ハ」

「おう、つふ^ハ」

「はいっ、つた、あ
う……」

「あつ
……は、あつ
——

「幼つゞ、う、う……」

「は
わ
は
わ
は
わ
は
わ
」

「あんつあんつ、あんつ……あんつ……あんつ……あああああんつ♡」

「私につ……種付けつ……したくてつ……必死につ……腰を振つてつ……る、んんん、

「ああああ あ あ う ……」

い
い
い
い
い
つ
き
も
ち
い
、
い
い
い
い
い
い
つ
つ
ん
ん
づ
—

「素敵よつ……素敵つ……」

「はつ……はつ……はつ……はつ……はつ……」

「あつ…………あつ…………あつ…………あつ…………あつ…………あつ…………あつ…………」

ああああああああ
うううううううう

「感じる、う、う、う、う、……」

「やつば、あ、あい、い、いつつ……う づう う……」

「アナタが
……
ごめんなさい
……
」

「夏双」之「三十」

「おうつ！」

「おう……おう……おう……おう……おう……つほ、おつおつ！」

「い、今のつ……今の、言葉つ、効くう う う つ……ん つ」

「お、お、うお……つほ、つお

「寝取られつ……妻つ……なのつお

卷之三

〔アーティスト名〕

〔お^ハ〕

「きたつ
」
♥

「おほつ^ハ」

「おひつ……おひつ……おひつ……おひつ……」

「効いたか (ら) あつ……きちゃ うつ たつつ、つ……」

「アクメ　つ…………つ　つ…………くる　"つ…………う　"つ…………」

「(え) つ?……イグの?」

「ん　う…………い　いわ　よう…………」
〔〕

「じやあつ……一緒につ……つ……一緒につ、逝こつ……♥」

「私がつ……逝つてるときにつ……子宮につ……だひてつ……♥」

「チンポみる ぐう、う、う♥」

「種付けつ……ん づん づ！！」

「逝つてるときにい……どひゅうどひゅうつてえ……」

「つつ……つほ、お、つお、お、つ、」

「…………アグメつ…………つ…………つくる…………」

「あ
うつ……あ
うつ……あ
うつ……（か）つ……あ」

「ひの……ぐの……う　う、うん　ん　ん　うう……！」

「おつ……」(ア)「……」

「で、てる、う、ひ……」

「アグメで……痙攣、して、う子宮に……」

「特濃のつ……お、お……」

「孕む、う、つ……妊娠、じちゃう、つ……う、つほ、お……」

「(ふつ……ふつ……つふつ……ふつ……ふつ……)」

「(ふー……ふー……ふー……ふー……ふー……)」

「不倫……種付け、セックス……♡」

「しゃい、おおお……♡」

◆オマケ章（優しいシスターはやっぱり子供みんなの人気者！　あらら、うふふ。　子供の未来と笑顔のために今日も頑張ります！）

「え？」

「これ、もう回ってるんですか？」

「あ、はい、ごめんなさい」

「えっと……名前はメリッサ……で、年齢は24歳……です」

「あ……」

「結婚は、しますが、子供はいません」

「志望動機、ですか？」

「……えっと……やっぱり……欲求不満……ですかね♡」

「ふふ……」

「あ、大丈夫です、主人は謝つたら許してくれるタイプの人なので……」

「はい♡」

「あ、はい♡」

「メリッサが裏切りパコパコしてアヘってるのを見てえ、たくさんの殿方がいっぱいシコつて、気持ち良くてチンポミルクピュッピュつってくれたら、すごく嬉しいでえす♡」

……

……

……

「はい、ごめんなさい……」

「二度としませえん……」

「はあい……」

「失礼します……」

『ガチャ』

『バタン』

「はあ……こつてり絞られましたわ……」

「こんなに怒られるんじや、何のための告解だかわかつたもんじやない……」

「夫はおろかな私めのことを、お許し下さつてはるはずなのに、あの、く（そ）……おうん
こおじいさまときたら、頭の固い事ばかり……」

「（はあ……）」

「んっ」

『パンパンっ』

「さやーー！」

「気持ちを切り替えて、今日も、子供たちの明るい笑顔と未来のため……」

「英語を教えつつ、隙あらば、夫の布教をいたしましょう」

「ん……」

『ガチャ』

「はあい♡」

「グッドモーニングエブリワン」

「今日も、元気に、英語を勉強していきましょうねえ♡」

「あらあら、元気いいわねえ」

「うふふ……」

「さ、じゃあはじめますよお♡」

「まずは、昨日の続きから……」

「リピートアフタミー」

◆オマケのオマケ章（有名Ｖチューブグループに合格！配信きり忘れオナニー垂れ流し！）

「はろーえぶりわん！！ ホ○ライブ12期生、システムメリッサですわあ」

「……」

「ふふ……♡」

「あー、ちょっと待ってくださいね……」

「まだ機材の使い方が、そんなに……」

「うん……これでいいのかな？」

「わーわー……」

「聞こえます？」

「わーわー……」

「あ、大丈夫……」

「ふふ……」

「ん……今日は、なんか、運営から強制のゲーム枠でえ……」

「よくわからぬけど、マネちゃんからこれ、渡されたんですよ」

「えつと……「つぼおじ」？ かな？」

「えええええ？ なに？ これ、そんなヤバいんですかあ？」

「システム苦手だからなあ……」

「大丈夫かな……」

「なんか、もしゃれなら、みんなヒントとか下さいね……」

「え……そういうんじゃないの？」

「テクニック的にヤバイやつ？」

「うつわ……それ、どうなんだろ？」

「コ○ネ先輩みたいに、長時間できないからなあ、私」

「ま、とりあえず、じゃあ、やってみましようかあ……」

……

……

……

「ちょ、、ちょっと、これ、な、何これええええ！！」

……

……

……

「きやーーー！」

「ちょ、、無理むり無理むりつ……！」

……

……

……

「はい、というわけで……」

…………ごめんなさい…………

5時間頑張ったんですけど、シスターちよつと力不足でした…………

「ちょっとじゃないかな？」
　　だいぶ力不足というか……

「んー……また、機会があれば、うん……チャレンジしてみたいとは思いますけど……」

「ホントごめんなさい

「今からうよつこ夏な、三、明日の重音がうつる強制の次牛あら」

「はあ
い
・
・
・
・
」

「じゃあ、皆も、おやすみなさい。

卷之三

「しー ゆあ げー ん。ぐつ な い !

1

•
•
•
•
•

•
•
•
•
•

「（はああああああああああああああああああ……）」

「なにこのクソゲー……」

「なこが、つぼおじだよ……」

「なんなの、このく(そ)……おうんこおじさんつ、ホント……ゲームの目的すらよくわか

らないし……」

「なにがしたいのよ」

「てか、マジ、難易度どうなつてんのよコレ」

「5時間やって、なんで振り出しに戻んのよ……」

「ゲームとしてあり得ないでしょ……」

「(はああああああああああああああ)」

「つっかれたあ ‘……」

「5時間、これ、ぶつとおしつて……マジ……」

「あああああ ‘ああ ‘あ ‘……」

「配信業も感じやないですかね……」

「あ ‘……」

「……」

『コスつ…………いすつ…………こす…………』

「んつ…………んつ…………」

「あつ…………あ…………あつ…………」

「(はあ…………はあ…………はあ…………はあ…………)」

「あんつ…………

「あつあつあつあつあつあつ♡」

「おまんこ……」

「ああああ、い……」

「ん……ん……」

「ずっと……配信しながら、たまにこすりつけてたからつ……」

「もう……やばあい……♡」

「こすりつけオナニー……きもちいい、いっ……♡」

「ずっと……、もうちょっと強く、こすりたかったからつ……」

「でもつ……声、でそうになつちゃつた、から……我慢、して、で……」

「我慢つ……ん、つ……」

「しそぎたかりや……あ……」

「あつ……あつ……あつ……あつ……あつ……あつ……」

「机としえつくしゅつ……♡」

「ああ、ちいい、い……♡」

「あんつ……あつ……あつ……あんつ……つはあああ、ああああ、つん、ん、♡」

「これだけはつ……やめられなあいい」

「小さいつ……ときかりや……♡ ずっとつお♡」

「隙と、カドがあればつ……どいでもつ……しちやうの、お、う、♡」

「オナ づちや う う づ……」

「カドおお……つ^ハ」

「カドしゅきいい♡」

「カドと、浮氣いい……
♥」

「ごめんなしやい……」

「ごめんなしやあああああいいい
♥」

卷之三

卷之三

「つ……か、あ、は♥」

「……軽イキ、しひやつた、あ……」

「あ、あ
」

（はあ…………はあ…………はあ…………はあ…………）

「あうううううううう」

「あーーー……」

駄目、これ……」

「我慢できない……」

「クリ逝きじや、足らないわ……」

「(はあ)

「このままじや寝れない……」

「……デイルド持つてこよ……」

「やつぱり結局は、中逝きしないと……」

『ガサ、ガサ……』

「ガサ……」

「ん？」

「……え？」

「なにこれ……」

「ちようコメント入ってんだけど……」

「あ ‘……」

「これ……配信、もしかして、切れてないのかしら？」

「……」

「あ ‘……」

「そ‘う……」

「(ふうううう……)」

「神よ……愚かなアナタの子であり、妻である私を、どうか許したまえ……そして……」